



女池

庄屋がその池に行つて、女に近づいて静かに話しかけたところ、娘は「はい、いつもこの所をお借りして申しわけありませんでした」と深く頭を下げて歸つた。

この娘は、岩代今泉村の名主の娘だったといわれている。水があんまりきれいなので、水鏡に自分の姿を映して髪をとかしていたという。それ以来、村の若い女たちが、われもわれもとその池につめかけたそうである。この池で水鏡を使えば、美人になると信じて疑わなかつたそうである。

その後、だれ言うとなく姫池などとも呼ばれ、いつしか女池と呼ばれるようになった。今も女池という地名が残っている。
(話者 菅野寅治)

観音橋の由来

《志 茂》

志茂の県道より、新館屋敷に行く途中に架けられている橋を観音橋と呼んでいる。昔は、杉丸太の胴割二枚を、川の中央に鳥居を立てて、南北より一枚ずつ鳥居にかけ、橋の幅は約一尺五、六寸(四・五センチほど)位なので、大雨で増水の時は非常に危険であった。